

令和元年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 教育学部

フリガナ ウト ヤスヒロ
氏名 宇土 泰寛

研究期間 令和元年度

研究課題名 SDGs の視点から捉え直す新美南吉の物語世界
～大陸間教育プロジェクトでの海外の子どもたちへの紹介と交流に向けて～

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	宇土泰寛	教育学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

SDGs (持続可能な開発目標) のための教育を探究し、特に、水・気候変動の問題への取り組みを中心に研究実践してきた。異常気象など現在深刻化している課題の中で、その原因としてエネルギー問題、モビリティ・マネジメント問題との関係は、SDGs の教育としても重視されている。この問題を教育現場でより広げるために、子どもたちに親しまれている作家の物語に着目した。当初、全国的に有名で、愛知の出身である新美南吉は、「ごんぎつね」のイメージが強く、関係ないと考えていたが、SDGs 問題に関わる小作品を見出した。新美南吉の物語世界を再度 SDGs の視点から捉えなおし、これを日本の学校はもちろん現在交流しているフランスやブルキナファソの子どもたちにも紹介し、新たな交流手段を開発したいと考えている。

2. 研究の推進方策 (300字程度で記述)

新美南吉の作品をチェックしたり、新美南吉記念資料館を訪問したり、安城の街の新美南吉に関わるモニュメントを調べたりしながら、新美南吉の生きた時代の社会背景や歴史的背景を探究する。SDGs の視点から、作品を選択し、その内容を吟味し、背景となっている社会的・歴史的な位置づけを考察し、再解釈を加える。特に、それらの作品で、水・気候変動、モビリティ・マネジメント等に関係する作品をさらに選び、この作品の映像化や紙芝居にしたり、ジオラマの中に再現したりして、子どもたちにとっても、より理解しやすくする。

日本の子どもたちに紹介するのはもちろん、海外の日本人学校の子どもたちや大陸間教育プロジェクトで交流しているフランスやブルキナファソの子どもたちに紹介するために、まず先生方に、日本の物語作家新美南吉についての話や SDGs 教育との関連性を紹介する。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

今までやってきたSDGs教育と関わる大陸間水・気候変動教育プロジェクトでは、自分たちで、物語を創り、ミュージカルやジオラマ、クロマキーのショートストーリーなど多様な方法で表現し、大陸を越えた交流を実施してきた。そして、2019年3月30日には、パリ公演で「パリ子ども宣言」を3か国の子どもたちが発表した。新美南吉など既存の有名な作家の物語を教材として使うのは、子どもたちにも親しみやすい。しかし、新美南吉は、「ごんぎつね」などで全国的に有名であるが、SDGs教育と関連するとは思わず、見過ごしてきた。今回、新美南吉記念資料館を訪問し、彼の作品がSDGs教育とつながることを発見できた。中でも、「大力の黒牛と貨物列車の話」を見つけて、日本の産業革命時代の社会の変化を描いており、さらに物語を見てみると「おじいさんのランプ」もエネルギーの転換を描いていたのである。

そこで、プロジェクトでは、子どもたちのSDGs教育として、テキストを使わない学びとして、ジオラマを使ったプロジェクト型の学び合いを実施しているが、この新美南吉の「大力の黒牛と貨物列車の話」にもとづく場面をジオラマの中に作ったのである。明治時代の蒸気機関車、駅前広場、黒牛と荷車を再現したのである。このジオラマの中のしかけ(レトリック)に、子どもたちが気づいたとき、新美南吉の物語が始まるのである。さらに、安城市出身のゼミ生がたいへん関心を持ち、安城市の街の中にある新美南吉の物語のモニュメントやウォールペイントをたくさん見つけてきて、発表してくれた。

このような国内の研究成果と共に、海外で新美南吉の話をするにより、フランスの産業革命時代の社会変化を描いている人物がいることを見出すことができた。この人物は、フランス・パリ生まれのたいへん有名な印象派画家であるクロード・モネである。モネに関しても「睡蓮」で極めて有名であるが、SDGs教育との関りには注視してこなかった。しかし、今回のヨーロッパ訪問で、モネは、近代化によって変わりゆく風景を工場や鉄道、駅、列車などで描いているのである。今回、パリのオルセー美術館を訪ね、展示されている絵画をモネ以外にも見てみたが、他の画家もその背景に、煙を出す工場など、描いていることがわかった。

産業革命の人類にとっての貢献と共に、この時以来、二酸化炭素などの排出量が飛躍的に増加し、現在の地球温暖化、気候変動につながるというSDGs教育との関連性は、この日本とフランスの有名な二人によって、驚きと関心を引き起こし、より広めやすくなった。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①SDGs	②新美南吉	③気候変動	④モビリティ・マネジメント
⑤エネルギー	⑥クロード・モネ	⑦産業革命	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

- ①宇土泰寛、大陸を越えて学び合おう～宇宙船地球号とSDGs、ブラジル・サンパウロ日本人学校講演会、2019(令和元)年9月16日(月)
- ②宇土泰寛、「愛・地球」つなげよう学びの世界地図～SDGsでつむぐ「地域と教育」、東海ブロック国際理解教育研究大会シンポジウム、2019(令和元)年11月23日(土)
- ③宇土泰寛、新たな時代への教育改革とSDGs教育、ドイツ・ハンブルグ日本人学校講演会、2020(令和2)年2月14日(金)
- ④宇土泰寛、大陸間水・気候変動プロジェクト・地球子ども広場(Global Kids Square)活動報告、大陸間教育プロジェクトフランス会議2020(ストラスブール)、2020(令和2)年2月17日(月)